

# 分科会の見どころ・ 聞きどころ

## CKD患者に対して 薬局薬剤師が出来ること

座長  
日本薬剤師会理事  
井深宏和  
和歌山県薬剤師会常務理事  
武田千晴

わが国の透析患者は増加傾向にある。これは人口の高齢化が進んでいることに加え、糖尿病患者の増加とその合併症である糖尿病性腎症が増加しているためであると言われている。また糖尿病に限らず高血圧、動脈硬化を主因とする腎硬化症もあり、今後、高齢化に伴ってCKDの予防と重症化抑制の重要性はさらに増していく。

CKD患者は、薬物の排泄機能低下に伴い、薬効の増強だけでなく副作用の発現リスクも高い。また複数の薬剤が投与されることも多いことから、相互作用を含めた医薬品の適正使用には十分な注意が必要である。そのため、薬を一元管理できる薬局薬剤師としての役割はとて大きいと考える。

本分科会では、基調講演として、和歌山県立医科大学腎臓内科学講座の大矢昌樹准教授から、「医薬連携を通じたCKD重症化予防」として薬局薬剤師の役割の重要性について、検査データの共有やCKDシール事業を通じた病薬連携や服薬アドヒアランスの観点からCKD重症化予防について講演い

ただ。次いで、東京医科大学病院薬剤部の竹内裕紀薬剤部長から、本分科会のテーマを実践するためには、薬物体内動態の基本的知識を身に付け、それを駆使していくことが重要であり、CKD患者に対する薬物投与量調節もその一つであることから、「現場で役立つ薬物体内動態の知識—薬剤師なら使いこなそう」について講演いただく。

続いて熊本大学大学院生命科学研究部臨床薬理学分野の近藤悠希准教授から、適切に腎機能を評価した上で減量することで過量投与や有害事象を回避でき、そこに薬局薬剤師が関与することが大切であることから「薬局薬剤師視点で実践する腎機能低下患者における薬物療法の最適化」について講演いただく。最後にメイプルかも調剤薬局の東俊之氏から地域住民の腎臓を守るための実際の取り組みについて「薬局による腎機能数値の積極的な把握と腎機能共有ツールの作成」と題して講演いただく。

本分科会では、薬剤師として薬学的に薬の面からアプローチして患者の腎臓を守るためにできることを検討することにより、ご参加の先生方の日々の業務に生かしていただける知識を得る機会となれば幸いです。

(井深宏和)

## へき地・過疎地における薬剤師の役割

座長  
日本薬剤師会常務理事  
豊見敦  
和歌山県薬剤師会常務理事  
小林仁

薬剤師・薬局は、患者が必要とする医薬品を地域に過不足なく提供する責任を負っており、地域住民が薬剤師サービスを受用できる体制の整備が重要である。日本薬剤師会では政策提言において、この医薬品提供体制構築の重要性を指摘している。

へき地への医療提供体制については、都道府県が制定する医療計画においてその体制構築に向けた施策が定められており、へき地診療所への支援や医師確保などが策定されている。へき地の医療体制確保に当たっては医薬品の提供体制構築も重要な観点であるが、薬局/薬剤師を含めた体制が構築されている例は少ない。

今後はオンライン診療やオンライン服薬指導も含めて、へき地に暮らす住民に対する医療サービスが継続して実施される体制の構築が求められており、へき地医療における薬剤師の役割りを同定していくことは地域医薬品提供体制の構築に向けても非常に重要な

意味がある。  
元夕張市立診療所院長の森田洋之氏からは、医療経済学の立場から夕張の事例をもとに日本の医療界全体が学ぶべき点を解説していただき、地域医療における薬剤師のあるべき姿について論じていただく。

続いて夕張市立診療所の在宅医療を中心とした医療への転換や、地域医療の方向性に関する住民も含めた合意形成に際して薬局薬剤師が果たした役割について、アインファーマシーズの小島多加志氏に詳細をご報告いただく。

京都で“地域共生社会”と“社会的処方”をキーワードに薬局のアウトリーチ活動を展開するゆう薬局グループの船戸一晴氏からは、実践事例を通じて薬剤師がコミュニティケアに関わる有用性についてご説明いただく。

薬学教育の観点からは、二次医療圏の医療偏在を学ぶ地域医療薬学実習について、和歌山県立医科大学薬学部教授須野学氏より発表いただき、地域医療の現場で進める教育についての認識共有を図る。

本分科会では、この4講演を軸にへき地・過疎地における薬剤師の役割を考える。

(豊見敦)

## 薬局薬剤師の地域貢献

### —地域住民の健康増進や環境向上のために何ができるか

座長  
日本薬剤師会副会長  
田尻泰典  
和歌山県薬剤師会常務理事  
坪山晃大

医薬分業の進展等により、薬剤師および薬局を取り巻く環境は大きく変化し、原点に立ち返り、現在の薬局を患者本位のかかりつけ薬局への推進を図るため「患者のための薬局ビジョン」が厚生労働省から示されたのは2015年10月であった。また、超高齢化・人口急減の到来に向け第8次医療計画(24~29年度)の策定が進められている。

「対物から対人に、薬局から地域へ」を果たし、薬剤師・薬局が地域に根ざした存在になるために何をなすべきか。本分科会ではまず、日本薬剤師会常務理事の荻野構一氏から「地域での保健医療推進のために薬局薬剤師に期待すること」として基調講演をいただき、和歌山県立医科大学薬学部教授の岡田浩氏から「地域住民の健康と生きがいを支える場としての薬局：国内外の臨床研究成果から」と題し、地域住民の

医療へのアクセス維持し、生活の質を維持するために、アクセスが良く、医療専門職である薬剤師が常駐している薬局という場を活用した取り組みとして、海外の薬局の取り組みと国内外の薬局における臨床研究の成果を紹介いただく。

続いて、京都大学大学院生命科学研究科付属放射線生物学研究センター特任教授(京都大学名誉教授)の渡邊正己氏から「活物窮理が医療の原点であることを知ろう」として、教育者あるいは科学者としての目で薬局を取り巻く状況を分析し、薬剤師としてどのように地域貢献に取り組み、地域住民の健康増進のために何ができるかについての考えを紹介いただく。

最後に、宮崎県薬剤師会副会長の青木浩朗氏から「地域活動 気軽に相談されるようになるために必要なこと」と題し、健康フェアやお薬相談など薬局が主体で行う様々な地域活動が行われている中で、健康に関わる相談の事例を挙げていただく。今後のわれわれの薬剤師業務に生かしてほしい。

(田尻泰典)

調剤に携わる『全薬剤師』必読の一冊！

# 第十四改訂 調剤指針 増補版

日本薬剤師会 編

調剤の概念や処方箋、処方監査、疑義照会、後発品対応、製剤ごとの取扱い、医薬品管理など薬剤師(調剤)業務に関するガイドラインとなる『指針』を示し、その内容を日本薬局方や関係法令に基づきわかりやすく解説した規範書。

B5判/448頁/定価 5,280円(本体 4,800円+税)

薬事日報社 ご注文はオンラインショップへ(<https://yakuji-shop.jp/>)



### 乾燥肌の治療薬

# ピーソフテン®

保湿 抗炎症 血行促進

へパリン  
類似物質  
配合

保湿力を高める

クリーム

販売名:ピーソフテンクリーム  
内容量:100g 第2類医薬品



広範囲に塗りやすい

スプレー

販売名:ピーソフテンスプレー  
内容量:100g 第2類医薬品



スーッと浸透する

ローション

販売名:ピーソフテンαローション  
内容量:50g 第2類医薬品



塗りやすい泡タイプ

泡スプレー

販売名:ピーソフテン泡スプレー  
内容量:100g 第2類医薬品



帝國製薬グループ

テイクコファルマケア株式会社  
<http://www.teikoku-pc.co.jp/>

〒769-2695 香川県東かがわ市三本松567番地  
TEL 0879-25-7771 FAX 0879-24-1611



当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>